

授業科目(ナンバリング)	公的扶助論 (DA306)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
生活困窮者を救済し、生活を支援するための制度・施策について、生活保護制度を中心に理解する。単に制度を理解するだけでなく、生活困窮や貧困はなぜ発生するのか、日本の貧困の現状はどのようなものか、貧困問題に対して公的扶助制度はどのように機能しているか、現在の日本の公的扶助制度の問題点や課題は何か、といったことについて考えることを通じて、貧困問題を社会全体の問題として考える姿勢を身につける。 なお、本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士受験科目の「低所得者に対する支援と生活保護制度」に相当する科目である。							①②③④
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	生活保護制度をはじめとする、生活困窮者救済のための諸制度について説明できる。				・小テスト 10% ・随時試験 20%	30%	
情報収集、分析力	生活困窮や貧困はなぜ発生するのか、社会的背景を踏まえつつ説明することができる。				・小テスト 10% ・随時試験 40%	50%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本および世界各国の貧困問題に関心を持ち、社会福祉の実践者(専門職)として、貧困問題を社会全体の問題として考える姿勢を身につける。				・小テスト 10% ・随時試験 10%	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
最終回(第15回)の授業内でマナバを用いて随時試験(穴埋め・択一およびその解答解説・論述)を実施する。また、毎回の授業後に、当日の内容に関する小テストを行うとともに、授業内容に関するコメントを求める。小テストおよびコメントについては、次回の授業の冒頭で解説やコメントなどのフィードバックを行う。評価比率は上記のとおりである。評価基準は長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。							
授業の概要							
授業は、動画配信(パワーポイントを用いた解説動画)の形で実施する。遠隔授業であっても、通常の授業と同様、内容の「真の理解」をめざす授業を展開する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：増田・脇野編『テキストブック公的扶助論』法律文化社、2020 参考書：『新・社会福祉士養成講座 第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度－公的扶助論(第5版)』中央法規(2016) 指定図書：教科書と同じ。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の実践者として、公的扶助や貧困の問題について、社会全体の問題として考える姿勢を身につけてほしい。</li> <li>・そのために、日ごろから新聞等に目を通し、日本や世界各国の貧困問題に広く目を向けてほしい。特に現在、日本の生活保護は基準の見直しや法改正が行われるなど、制度をめぐる動きが急である。そのような動向について常に留意する姿勢を持ってほしい。</li> <li>・予習、復習として、教科書の指定箇所を授業前後に必ず読んでおくこと。</li> <li>・生活保護をはじめとする諸制度について、単に「暗記」しようとするのではなく、制度そのものを「理解」するよう努力してほしい。そのために、講義には休まず出席し、特に復習を確実に行うこと。万一理解できなかった事項については、決してそのままにせず、いつでも遠慮なく質問してほしい。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 公的扶助とは	講義の進め方、講義の予定などについて説明する。 公的扶助とはどのようなものかについて、入門的な説明を行ったうえで、関連するDVDを視聴する。その内容に関する授業内小レポートを提出してもらう。	予習：教科書序章を詠む。 貧困問題とは何か、自分なりに考えてみる。
2	貧困とは何か	「貧困」の概念と、その発生要因について理解する。	予習・復習：教科書第1章第1節2節を読んでおく。
3	わが国における貧困の現状	わが国における貧困の現状がどのようなものかを、具体的な事例を通じて理解する。	予習・復習：教科書第1章第3節4節を読んでおく。
4	公的扶助の歴史①	公的扶助制度の登場とその展開について、イギリスにおける救貧法の歴史的展開過程の考察を通じて理解し、公的扶助の概念の理解に役立てる。	予習・復習：教科書第12章第1節を読んでおく。
5	公的扶助の歴史②	日本の公的扶助の歴史的展開について、明治時代以降を中心に理解し、現在の制度の理解に役立てる。	予習・復習：教科書第12章第2節を読んでおく。
6	生活保護制度①	保護の理念、目的、基本原理、基本原則について理解する。	予習・復習：教科書第4章を読んでおく。
7	生活保護制度②	保護における給付の種類、範囲、方法について理解する。	予習・復習：教科書第5章第1節2節を読んでおく。
8	生活保護制度③	相談、申請から受給に至る保護のプロセスについて理解する。 *第6回～第8回の内容に関する小テストを実施する。	予習：教科書第5章第3節4節を読んでおく。小テストに向けた復習。 復習：小テストの復習。
9	生活保護制度④	最低限度の生活の具体的な基準となる「保護基準」について、その決定の仕方の変遷と、現在の決定方式を理解する。最低生活費の算定方法について理解し、実際に自分の最低生活費を計算してみる。	予習・復習：教科書第5章を再度読んでおく。
10	生活保護制度⑤	被保護者の権利義務について理解する。 不服申し立ておよび行政訴訟について理解する。	予習・復習：教科書第4章第4節5節を読んでおく。
11	生活保護の実施体制	生活保護の実施体制と福祉事務所の役割について理解する。 *第9回～第11回の内容に関する小テストを実施。	予習・復習：教科書第4章第4節を読んでおく。小テストに向けた復習。 復習：小テストの復習。
12	生活保護における相談援助活動	生活保護における相談援助活動のプロセスと方法、関連機関との協働について、具体的な事例を通じて理解する。	予習・復習：教科書第7章を読んでおく。
13	生活保護をめぐる動向と制度の課題	生活保護をめぐる近時の動向と、そこからみえてくる課題について理解し、制度の今後のあり方について考える。 *生活保護の動向に関する小レポートを実施する。	予習・復習：教科書第6章を読んでおく。
14	生活保護制度以外の低所得者施策	生活保護制度以外の低所得者施策について、生活福祉資金貸付制度を中心に理解する。	予習・復習：教科書第10章を読んでおく。
15	まとめ—低所得者・貧困施策の今後	これまでの講義内容を踏まえながら、社会的セーフティネットとしての低所得者・貧困施策の今後のあり方について考える。	予習：これまで学習した内容のふり返し。 復習：定期試験に向けた復習。
16	定期試験		